

1) の元過ぎれば、先に、スペインインフルエザの流行が過ぎ...

「新しい生活様式」それは長くは続かないのではないだろうか...

結局コロナ制御時代には私たちは概ねコロナ流行以前の生活に戻るでしょう...

でも、変わっていく部分も、それもこの経験で変わることも確実にありそうです...

それは特に働き方や学びの面で目立つてきそうに思われます...

「さよなら、オフィス」はひょっとしたら「さよなら、都会」になるかもしれません...

在宅勤務は男性による家事や子育てをさらに加速するかもしれません...

3) コロナ制御時代のウイルス感染症との付き合い、もしコロナ制御時代に入った場合...

そしてもし感染すれば早く診断を受けて必要があれば薬を飲む、などの対応をします...



諏訪中央病院 副院長 高木宏明

考察「ビヨンド・コロナ」(中)

この災禍をくぐり抜けて私たちは何を獲得していくのか？

寄稿

「価値あるもの」を捉えなおす

1) コロナ来襲前の社会と生活、スペインインフルエザパンデミックに見舞われて100年...

2) コロナ流行で見たこと、わかったこと、新しいコロナウイルス感染症の流行で...

3) 自粛、あるいは引きこもり生活の中で、多くの人が休業や隔離や自粛のために...

4) 「価値あるもの」を捉えなおす、私たちが今回のこのコロナ禍においている...

5) 医療は進歩しましたが、その一方で効率優先、民間と経済優先政策により...

6) 暮らしの中でつながらなくなった、私たちが何に価値を置いて「コロナ制御時代」...

7) 失っているはいけないもの、今度では変わってほしくないこと、あるいは変わってほしくないこと...

8) コロナ制御時代に、私たちは何に価値を置いて「コロナ制御時代」の生活と社会を創造していけばいいでしょうか...

9) 自由、特に移動の自由、コロナ第一波の緊急事態宣言、あるいは海外のロックダウンでは自由が制限されました...



ビヨンド・コロナ 諏訪地域の未来は？

と、さらには個人、地域が、国がお互いの多様性を認め合い、コロナウイルスの前にみなが一列であり、いがみあうことなく、尊敬し合い連携すること...

スーパーの入り口、入る時、持ち込まないために手を消毒してね、出る時、持ち帰らないためにもう一度消毒してね...

「価値あるもの」を捉えなおす、私たちが何に価値を置いて「コロナ制御時代」の生活と社会を創造していけばいいでしょうか...

「価値あるもの」を捉えなおす、私たちが何に価値を置いて「コロナ制御時代」の生活と社会を創造していけばいいでしょうか...

4) 死者への敬意、法律によるものとは言い、死にゆく大切な人と会うことができる、死に際の際の枕元立つこともできない野辺の送りをするのもできなくない...